

## 山形盆地断層帯の長期評価の一部改訂について

平成19年8月24日

山形県総務部危機管理室

### 1 長期評価の改訂、公表

文部科学省(地震調査研究推進本部地震調査委員会)は、平成14年5月に公表した山形盆地断層帯の長期評価について、予測精度を向上させるため、平成17年11月に実施した補完調査の結果に基づき長期評価の改訂を行い、8月23日にその内容を公表した。

### 2 山形盆地断層帯の長期評価の改訂内容

前回の長期評価は、断層帯の全てが同時に活動した場合を評価したものであるが、今回の評価では、北部と南部に活動区間を分け、それぞれが単独で活動した場合の地震規模及び発生確率が示された。

- (1) 北部の地震規模はマグニチュード7.3、今後30年以内の地震発生確率は0.002%～8%
- (2) 南部の地震規模はマグニチュード7.3、今後30年以内の地震発生確率は1%
- (3) 断層帯全体が同時に活動する場合の地震規模は、前回と同じマグニチュード7.8

項目	前回の評価 (H14.5.8 公表)	今回の評価 (H19.8.23 公表)
長さ	約60km (大石田町～上山市)	全体:約60km 北部:約29km(大石田町～寒河江市) 南部:約31km(寒河江市～上山市)
最新活動時期	約6,000年前以後	北部:約3,900年前以後、約1,600年前以前 南部:約5,100年前以後、約4,300年前以前
平均活動間隔	およそ3,000年	北部:約2,500年～4,000年 南部:約2,500年程度
地震の規模	マグニチュード7.8	全体:7.8 北部:7.3 南部:7.3
地震発生確率(30年)	ほぼ0%～7%	北部:0.002%～8% 南部:1%

### 3 地元説明会の開催

日時、場所：平成19年8月27日(月)13:30～、村山総合支庁講堂

主催：文部科学省、山形県

参集範囲：県、市町村、消防本部など防災関係機関、報道関係者

説明内容：山形盆地断層帯の長期評価の一部改訂について(文部科学省)など

### 4 改訂を踏まえた県の対応

大規模地震の発生に備え、被害の最小化を図るため、建築物の耐震化や自主防災組織の育成強化、災害時用援護者対策の推進など、山形県地域防災計画の着実な実施を図る。



# 山形県の活断層

## 庄内平野東縁断層帯

位置・長さ	遊佐町～鶴岡市(蔵島) 約38km
想定マグニチュード	約M7.5
地震発生確率(今後30年)	ほぼ0～6%

## 新庄盆地断層帯

位置・長さ	新庄市～舟形町 約11～23km
想定マグニチュード	約M6.6～M7.1
地震発生確率(今後30年)	0.7～1%

## 山形盆地断層帯

位置・長さ	全体：大石田町～上市市 約60km 北部：大石田町～寒河江市 約29km 南部：寒河江市～上市市 約31km
想定マグニチュード	全体：約7.8 北部：約7.3 南部：約7.3
地震発生確率(今後30年)	北部：0.002%～8% 南部：1%

## 長井盆地西縁断層帯

位置・長さ	朝日町～米沢市 約51km
想定マグニチュード	約M7.7
地震発生確率(今後30年)	0.02%以下

